

校長室だより

令和8年 5月15日(金)
第7号
十日町市立中条中学校校長室

ヒューマンエラーと心理的安全性について

ヒューマンエラーとは、「人が関わる作業や判断の過程で起こる誤りのこと」です。本人に悪意はなく、能力不足だけでも限らず、環境・仕組み・心理状態など多くの要因が重なって発生します。これは学校現場でもよく起こります。

私なども失敗を恐れて、逆に緊張してしまい、結局失敗することがよくありました。大事な場面ほどそうなる自分だったように思います。

ヒューマンエラーですが、実は教室の中でも数多く起こっています。教室の中はヒューマンエラーの宝庫とも言えます。「問題を間違ふこと」「見当違いの発言をしてしまう」等々。その時に、先生や他の生徒がどう対応するかがとても大切です。

私は、校長室だよりや講話の中で、時々「**心理的安全性**」という言葉を使います。「**心理的安全性**」は、アメリカのハーバード・ビジネス・スクール教授のエイミー・C・エドモンドソンが提唱しています。



その理論は、「チーム内で率直な意見や失敗の共有が安心してできる環境が、学習とパフォーマンス向上に不可欠である」としました。病院でのチームワークと医療ミスとの関係を研究した結果、「優れたチームほどミスを報告しやすい傾向がある。これは『報告しても安全だと思える環境』があるからだ。心理的安全性は個人の性格ではなく、チームや組織の『雰囲気』『規範』『風土』といった集団的な特性に根ざす。心理的安全性が高まれば、メンバーが安心して意見を述べられることで、意思決定の質が向上し、失敗からの学習が促進され、イノベーションや創造性が高まる」としています。

当校でも、こういった学級や組織を目指していきたいと思っています。学校で言う心理的安全性とは、児童生徒が「ここにいても大丈夫」と感じられることです。児童生徒は毎日たくさんの挑戦をしています。分からない問題に向き合うこと、友だちに意見を伝えること、失敗しながら新しいことを学ぶこと、そのどれもが、安心できる環境の中ではじめて力を発揮できるものです。

逆に、「間違ったら笑われるかも」「先生に怒られるかも」と不安を感じてしまうと、子どもは本来もっている力を十分に発揮できません。安心感は、学びや成長の「土台」となります。

今の時代は、「ミスは起こりうるもの、ミスがあったとしてもみんなでそれに対処する力が組織にあるかが求められている」という考え方です。前述のアメリカの研究では、「優秀で成果を上げている集団にはミスが少ないわけではない。むしろミスが多い。そのミスをどう生かしていくかが問われている」という発表です。心理的安全性が確保された集団こそが成果を上げると言われています。心理的安全性が確保されていると、「ミスをしてしまった」などといった言いにくいことも迅速に共有できたり、新しいことに挑戦しやすくなったりします。結果としてチーム全体の成果も上がると言われています。



教室の中での心理的安全性の確保について

日々の教室の中で、心理的安全性がいかに確保されているかが、とても大切だと考えます。教室の中の心理的安全性とは、「まちがいや意見のちがいがあっても、否定されることなく、自分の考えや思いを表現できる状態」だと思います。この安心感があることで、子どもたち

は主体的に考え、友達と関わりながら学びを深めていくことができます。

当校では、様々な場面でペアや小集団で話すことをしています。授業の中でも教え合ったりする場面も多くしています。その中で、とても大切なことは、「相手を否定しない、笑ったりしない雰囲気づくり」です。まちがいを「失敗」で終わらせるのではなく、「学びの途中」として受け止めることで、「言っても大丈夫」という安心感を育てたいと思います。

新1年生が入学して、1年生の授業を回っている時にこんな場面に遭遇しました。

数学の時間に百マス計算をしていました。時間で区切られ、その担当教員は「お互いどこまでできたかお互いに見せ合って」と言いました。数名の生徒は自分のものを隠して他の生徒に見せませんでした。

私はこの場면을チャンスととらえました。この場面では心理的安全性は確保されていないからです。教職員の会議の中でこの場面の話をしました。その時に、ある教員が言いました。「これまでに、間違ったりうまくいかなかったときに他から笑われたり、心無い言葉など、何か言われたりしたのでしょいかね。」私はなるほどと思いました。

2, 3年生を見ていると、お互いの成果を遠慮なく見せ合い、時には分からない問題などを教え合ったり、一緒に考えたりする場面をよく見かけます。心理的安全性がかなり確保されており、それがこれまでの成果につながってきたと思います。

生徒には話し合いの場面で、以下のことを徹底していくことだと思います。

人を否定しない
間違いを怖がらない
最後まで聞く
違いを大切に
みんなが納得する答えを目指す



これは、昨年度話し合い活動を指導していただいた先生からも教えていただいたルールです。これをいかに徹底していくかが大切だと考えます。そして、これを実践している生徒が多くいることも事実です。

しかし残念ながら、そうでない生徒、例えば陰で相手をけなしたり、変な呼び方をしたりする人がいることもまた事実です。それをいかに無くしていくかが課題だと思っています。

また、教員としては、誰が間違ったり、おかしなことを言ったときに、それを笑ったり、心ない言葉が出たら、すぐにその場で指導することが大切です。

発明王エジソンの言葉から考えてみましょう。

○失敗は恥じるものではなく「学ぶもの」

発明王エジソンは次の言葉を残しています。「私は失敗したことがない。うまくいかないやり方を1万通り見付けただけだ」

私たち人間は人生の中で何度も失敗を繰り返し、その中から何かを学び、成長する。それは、私たちが子どもだったころから繰り返されてきたことだ。ところが、大人になると人間は失敗を恐れるようになる。失敗することを恥ずかしいと思ったり、批判や叱責されることを恐れたりするからだ。

しかし、アドラーは言う。「挑戦には失敗がつきものである。失敗したら、失敗を認め、失敗から学べばいい」もしもエジソンが最初の失敗を恥じ、以降の発明をやめていたとしたら、発明王は誕生しなかったし、数々の生活必需品もこの世に存在しなかっただろう。

引用 「アドラー心理学がマンガで3時間でマスターできる本」 吉田 浩著 明日香出版社



下線部がとても大切です。最初からうまくできる人や1回学べば身に付く人はそんなにいません。繰り返し読んだり、書いたり、教えてもらったり、練習したりして身に付けていくのです。そこには心理的安全性の確保がもっとも大切です。

心理的安全性の確保は学校だけではできません。家庭の協力が必要です。また、別の機会でも心理的安全性の確保の家庭でお願いしたいことをまとめてみたいと思います。